



黒岩探訪

たんぼう

38

KUROIWA
くろいわ

黒岩の小字名2

小字名「十王山」と名所「城山」

じゅうおうやま

じょうやま

一学期、三年生社会科の「自分がおすすめる富岡市の名所」の授業を見ていた時に、ある児童が自宅近くの「城山公園」を勧めていました。その時に、砂田地区から直接「城山公園」に行けることを知りました。また、学校評議員さんと「十王山」という小字名を話題にした時に、評議員さんから「じゅうおうやま」が「じょうやま」のもとになったのかと聞かれましたが、考えがまとまらず、以来気になっていました。今回はこれらの「十王山」「城山」「城山公園」について考えを整理してみます。

最初に十王山です。前号で、小字砂田西の石造物群を紹介しました。ここには、閻魔王、司命・司禄及び奪衣婆などの十王信仰に関連した像がそろっています。十王信仰による石像は、江戸時代初期に広まって各地に十王の石像が建てられたそうです。富岡市内では、閻魔王像、司命・司禄像などは他地区にないことから、砂田地区は十王信仰の中心地な所だったのではないのでしょうか。そしてこの周辺で最高地点(二二八・五m)をもつ山を、その象徴として十王山と呼ぶようになっていったのではないのでしょうか。なお、砂田地区の一番北の小字は「寺貝戸」です。今はこの周辺にお寺はないようですが、

かつてはお寺に関わる何かがあったことが想像できます。

次に、城山です。十王山の東の上高尾地区に小字「城山」があります。ここは黒岩の高林城と同じ戦国時代に「富岡城」があったところです。西毛広域幹線道路前橋安中富岡線の開通に先立ち、この城の一部が平成23年度に発掘調査されました。その結果、丘陵頂部の斜面を造成して築城されている様子が分かりました。戦国時代の山城の存在が、後の「城山」という地名につながったものと考えられます。なお、最高地点は二〇九・八mです。

最後に城山公園です。城山公園は十王山の南側斜面に桜が植えられており、春には桜の名所になっています。疑問は、城山側ではなく十王山側にあるのに「城山公園」となっていることです。命名のいきさつは関係した方に聞かなければ分かりません。ここでは仮説として一案述べさせていただきます。いつの時からか、城山も十王山も合わせて「城山(じょうやま)」と呼んでいるということはないのでしょうか。

なお、黒岩探訪26号「黒岩村全図」の図にあるように、高林城があるところの小字名も「城山」です。